

## 9 研究の成果と課題

今回の研究実践では、ディベートの言語技術に着目したうえで、日常の音声を媒介としたコミュニケーション能力の育成およびその意欲の向上を目指して授業を行った。

単元終了後に、児童に振り返りシートを記入させた。振り返りシートの内容を AI テキストマイニングで量的に分析した結果、「ディベート」や「意見」といった学習活動に関する語のほか、授業者がディベートにおける言語技術として挙げた「三点ロジック」や「引用」という語が多く使用されていたことが示された。また、その振り返りシートの内容に着目すると、以下のような記述が見られた(図1, 2)。

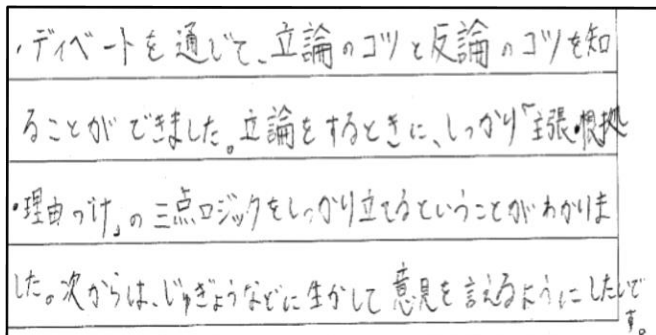


図1 振り返りシート①

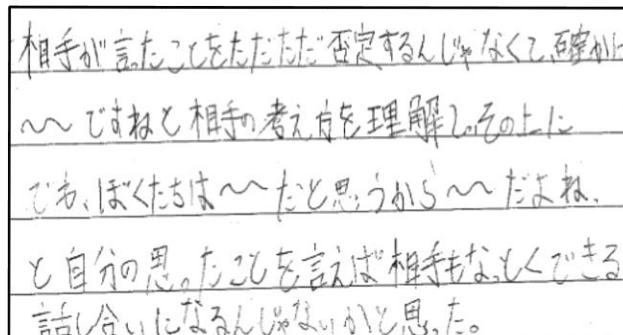


図2 振り返りシート②

図1や図2からは、児童は学習を通して「主張・根拠・理由づけ【三点ロジック】を生かしていきたい」「確かに～ですね【引用】といえれば更によい(相手も納得する)話し合いになるのではないか」という思いをもつことができたと考えられた。それは、①ディベートにおける言語技術を明確にしたこと②児童の話し合いそのものを学習材としたこと③その話し合いの様子を振り返らせたことが有効に働いたと考える。

一方で、児童一人一人が実際に質問や反論を経験できた頻度は、多くなかったと感じている。児童の話し合いの様子を学習材として活用しているため、言語技術のよさや価値については十分に理解できるよう促しているが、やはり、そのよさや価値を児童自らが実感することで日常生活に生かしていこうという意欲をもつことができると考える。今後は、限られた時数の中で、ゲームの回数やグループの編成方法、指導の焦点化について検討する必要がある。

## 10 次年度への展望

6年生の「話すこと・聞くこと」の話し合い活動として「パネルディスカッション」がある。パネルディスカッションとは、異なる立場の数人が聴衆の前で討論を進め、その後に聴衆の参加を求めて討論する話し合いの形式である。本実践のディベートは、2つの立場から討論し、論理の優劣を決める話し合いであった。この話し合いでは、相手の意見に対して「批判的思考力」を発揮していく必要があったといえる。一方、パネルディスカッションは、論理の優劣よりも話し合うことでお互いの考えを広げたり、深めたりしていく話し合いであるといえる。そのため、パネルディスカッションでは、相手の意見に対して「開かれた考え方」や「創造性」といった「新たな価値を創造する力」の要素を発揮していく必要があるとともにそれらを児童に育む授業実践が求められる。

本実践のディベートのように、ある論題に対して立場を2つに分けて話し合うという状況は日常生活場面において、あまり多いとは言えない。むしろ、さまざまな立場や考え方から話し合い、お互いのよさを取り入れたり、折り合いをつけたりしていく話し合いが多いように思われる。パネルディスカッションという話し合いを通して、「開かれた考え方」や「創造性」といった「新たな価値を創造する力」を育成していくことは、日常生活の音声を媒介としたコミュニケーション能力の育成を目指すうえでも重要である。そのためには、それらの要素を育むための単元デザインや評価について考えていく必要がある。